

### 第三節 製鹽ノ検査

鹽ノ製造ニ付テハ取締上必要ノ爲製鹽場ニ就キ鹹水竝鹽ノ検査ヲ爲スコトトシ製鹽検査手續アリ

製鹽検査手續 明治四十二年三月  
甲第五九九號達

第一條 製鹽場ニ於テ検査スヘキ事項左ノ如シ

一 鹹水ノ採收、煎熬及現在數量、比重竝其ノ當否

二 鹽ノ製造、納付、自家用、損害及現在ノ數量、等級竝煎熬鹹水一石當製鹽量ノ當否

三 燃料ノ購入、使用及現在數量竝鹹水一石當製鹽百斤當使用量ノ當否

四 製鹽ニ關スル帳簿ノ整合

五 其ノ他前各號ニ附隨シタル事項

第二條 專賣取締規程第六十條ニ依リ調査スヘキ事項ノ外尙左ノ事項ヲ調査シ取締ノ資料ニ供スヘシ

一 鹽田面積、沼井穴數

二 標準トナルヘキ沼井穴、擔桶又ハ鹹水汲上用釣瓶等ノ各一箇ノ容量

三 一釜煎熬鹹水量

第三條 検査ハ前検査後臨檢前日迄ノ事蹟ニ就キ之ヲ爲スヘシ但シ臨檢當日迄ノ事蹟ニ就キ之ヲ爲スヲ便トスル地方ニ在テハ當

日迄ノ検査ヲ爲スヘシ

第四條 監視員ハ先ツ鹹水、鹽、燃料ノ現在ニ就キ其ノ數量ヲ調査シ後帳簿上ノ査閲ヲ爲スヘシ

第五條 鹹水ノ容量ハ乾燥セル標尺ヲ鹹水溜中ニ設ケタル基石上ニ垂直ニ樹立シ水分ノ附著セル部分ニ依リ容積表ニ對照シ之ヲ

定ムヘシ但シ豫メ一定ノ長サヲ有スル目標ヲ鹹水溜中ニ樹立シ置キ臨檢ノ際標尺ヲ以テ水面以下ヲ測量シ以テ鹹水入實深サヲ

測定シ容積表ニ對照シ定ムルコトヲ得

第六條 採收鹹水量ハ鹹水溜注入前後ノ容量ノ差ニ其ノ採收鹹水注入中使用シタル鹹水量ヲ加算シ之ヲ定メシムヘシ

第六條ノ二 左記支局管内製鹽地ニ於ケル採收鹹水量ノ調査ハ、當分ノ内前二條ノ規定ニ拘ラス豫メ容量ヲ測定セル擔桶數ニ依リ

之ヲ計量スルコトヲ得

一 三春專賣支局管内

一 名古屋專賣支局管内

一 熊本專賣支局管内(高田、鹿島出張所)

一 鹿兒島專賣支局管内(國製鹽地ヲ除ク)

第七條 採收鹹水ノ比重ハ鹹水溜注入ノ際三回以上測定シタル平均ニ依ラシムヘシ

第八條 煎熬鹹水量ハ一釜煎熬鹹水量ニ煎熬釜數ヲ乘シ之ヲ定メシムヘシ

第九條 煎熬鹹水ノ比重ハ煎熬釜ニ注入ノ際(溫度釜等豫備釜ノ設備アル地方ハ豫備釜ニ注入ノ際)一日三回以上測定シタル平均ニ依ラシムヘシ

第十條 現在鹹水ノ比重ハ臨檢ノ時々之ヲ測定スヘシ

第十一條 鹹水ハ臨檢ノ時々其ノ當否ヲ調査スヘシ

第十二條 製鹽量ハ納付鹽、自家用鹽、損害鹽及現在鹽ヲ納付量ニ換算シタル數量ノ合計トス

第十三條 散鹽ノ量ハ其ノ容積(立方尺)ニ一立方尺内ニ存在スル鹽ノ斤數ヲ乘シ之ヲ定ムヘシ但シ特殊ノ方法ニ依リ現在鹽ノ斤數ヲ算シ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 立方尺内ニ存在スル鹽ノ斤數ハ豫メ焚上後經過日數ノ異ナル毎ニ既知容積内ニ存在スル鹽ヲ秤量シ其ノ立方尺數ニテ除シ之ヲ算出シ置クヘシ

鹽ノ焚上後ノ經過日數ハ左ノ方法ニ依リ積算スルモノトス

一 最初ノ焚上ヨリ最後ノ焚上迄ノ平均日數最初ノ焚上當日ヨリ最後ノ焚上當日迄ノ日數ニ一日ヲ加ヘ二分シタルモノニ依リ  
二 最後ノ焚上ノ翌日ヨリ納付開始ノ前日又ハ調査當日迄ノ日數

三 納付開始ヨリ納付ヲ終了スル迄ノ平均日數納付開始當日ヨリ納付終了又ハ調査當日迄ノ日數ニ一日ヲ加ヘ二分シタルモノニ依ル

第十四條 散鹽ノ容積ハ其ノ形狀不正ナルトキハ同一密度ノ立方形、三角柱、圓錐或ハ三角錐トナシテ算出スヘシ

第十五條 散鹽ヲ納付量ニ換算スヘキ場合ニ於テハ焚上後ノ經過日數及焚上後納付ニ至ル見込日數ニ依リ相當缺減量ヲ見積リ之ヲ算定スヘシ

前項ノ算定ニ付テハ豫メ同一種類ノ製鹽ニ就キ焚上後經過日數ノ異ナル毎ニ其ノ缺減歩合ヲ調査シ置キ其ノ成績ヲ參照スヘシ  
第十六條 現在鹽ノ當否ハ前回檢査ノ現在量ニ其ノ後ノ焚上量ヲ加ヘ其ノ期間内ノ納付及缺減量等ヲ控除シタル差ニ略合致スルヤ否ヤニ依リ決定スヘシ

鹽專賣 鹽及鹹水ノ製造 製鹽ノ檢査



第十六條ノ二 鹽專賣法施行細則第十八條ニ依リ相當處理ヲ爲サシメタル場合ニ於テハ其ノ鹽ノ數量、處理ノ方法、處理期間等ヲ記載シタル票箋ヲ交付シ處理鹽ニ添附セシメ臨檢ノ時々其ノ適否ヲ調査スヘシ

第十七條 製鹽量ノ適否ハ豫メ左ノ方法ニ依リ算出シタル鹹水一石當製鹽量表ヲ作製シ置キ之ニ對照調査スヘシ

一 鹹水一石當製鹽量ハ鹹水ノ比重〇・五度毎ニ其ノ鹽分量ニ各等級毎ノ係數ヲ乘シテ各等級別ニ算出スヘシ

二 前號ノ係數ハ三回以上ニ涉リ第三號ノ方法ニ依リ調査シタル成績ノ平均ニ依ルモノトス尙各等級毎ノ係數ハ互ニ適當ノ較差ヲ保ツヘキモノトス

三 係數ハ煎煮日數十日以上ノ実績ニ依リ平均鹹水一石當製鹽量ヲ求メ之ヲ其ノ平均濃度ニ相當スル鹹水一石當鹽分量ヲ以テ除シタルモノ

第十八條 燃料購入量ハ當業者ノ陳述ニ依ルノ外實地ニ就キ其ノ量ヲ調査スヘシ

第十九條 石炭ノ量ハ第十四條ニ準シ其ノ容積ヲ算出シ一立方尺ノ斤數ヲ乘シテ之ヲ定ムヘシ但シ特殊ノ方法ニ依リ現在斤數ヲ算出シ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 石炭一立方尺ノ斤數ハ第十三條ノ二項ニ準シ豫メ其ノ種類別ニ調査シ置クヘシ

第二十一條 鹹水一石當及製鹽百斤當使用燃料ノ適否ハ第二十二條ニ依リ算出シタル數量ニ對照シ之ヲ調査スヘシ

第二十二條 鹹水一石當及製鹽百斤當使用燃料ハ左ノ方法ニ依リ豫メ算出シ置クヘシ

一 鹹水一石當及製鹽百斤當使用燃料ハ左ノ方法ニ依リ豫メ算出シ置クヘシ

蒸發量ヲ以テ除シ其ノ商ヲ鹹水一石當燃料トス但シ居出場ニ吸收シタル水分ハ蒸發シタルモノトシテ計算スヘシ

三 苦汁中ノ水分量ハ製鹽各等級別ニ調査シタル苦汁量ニ依リ尙製鹽量ニ比例シテ鹹水濃度ノ異ナル毎ニ算出スヘシ

四 燃料一斤(貫或ハ束)當蒸發量ハ鹹水中ノ水分ヨリ苦汁及製鹽中ノ水分(製鹽中ノ水分ハ分析表ニ依リ算出スルヲ要ス)ヲ控除シ使用燃料斤(貫或ハ束)數ニテ除シ之ヲ求ムヘシ

五 燃料一斤(貫或ハ束)當蒸發量ハ煎煮日數十日以上ノ実績ニ依ルヘシ

六 製鹽百斤當燃料ハ鹹水一石當燃料ヲ鹹水一石當製鹽量ヲ以テ除シ一〇〇ヲ乘シテ算出スヘシ

第二十二條ノ二 第十八條乃至第二十二條ノ規定ハ別ニ定ムル場合ヲ除クノ外當分ノ内ニ適用セサルコトヲ得

第二十三條 鹽專賣法第二十二條ニ依リ鹽製造者ノ調製スヘキ帳簿ハ第一號様式ニ據ラシムヘシ

第二十四條 鹽製造檢査簿ハ第二號様式ニ據ルヘシ

第二十五條 明治四十二年十二月二十八日甲第三六八九號鹹水溜容積表ハ第三號様式ニ據ルヘシ

附則

第二十六條 本手續ハ明治四十三年度ヨリ之ヲ施行ス

第二十七條 鹹水製造者ニ對スル検査ニ關シテハ第一條乃至第七條第十條第十一條第二十三條乃至第二十五條ヲ準用ス

第二十八條 再製鹽、海水製鹽及副産鹽ノ検査ハ別ニ定ムルトコロニ依ル

第一號様式

(用紙半紙)

明治 年度

鹽 製 造 簿

何縣何郡何町村大字何番地

鹽製造何預何番

製造人 何

某

備考

一 會計年度毎ニ各製鹽場各製造人別ニ調製セシムヘシ

二 鹹水、鹽、石炭ノ各口座ヲ設クヘシ

月 日		採 鹹 量		比 重		現 在 鹹 水 量		比 重		備 考	
前年度ヨリ	後	前後ノ深サ	石	數	煎熬鹹水量	比量	合	合	合	合	
		尺寸分	尺寸分				100,000		110		

鹽專賣 鹽及鹹水ノ製造 製鹽ノ検査

月	計	計	計	計	計	計	計	計	
四月	一日	三五〇〇	五〇、〇〇〇	一七	二〇、〇〇〇	二〇	一三〇、〇〇〇	一九	注入中使用三石
	二日	三三〇〇	四〇、〇〇〇	一七	二〇、〇〇〇	一九	一五〇、〇〇〇	一九	注入中使用三石
	三日	三七〇〇	九〇、〇〇〇	一七	二〇、〇〇〇	一九	一三〇、〇〇〇	一九	注入中使用三石
	計						一三〇、〇〇〇	一九	四月四日検査

備考

- 一 採鹹量ハ採收鹹水注入前後ノ鹹水入實ノ深サノ差ヲ容積表ニ對照シ(鹹水注入中使用シタル鹹水アルトキハ其ノ量ヲ加ヘ)採鹹量ヲ算出シ記載セシムヘシ
- 二 鹹水注入前後ノ深サ欄ニハ注入前後ノ入實深サヲ記載セシメ(注入中使用シタル鹹水量アルトキハ其ノ旨備考ニ付記セシメ)検査ノ時々採鹹量ノ誤算ナキヤ否ヤヲ調査スヘシ
- 三 一釜煎熬鹹水量ハ可成煎熬中ノ坩水ヲ避ケ一釜當鹹水量ヲ一定セシムヘシ但シ煎熬上不得已増水ヲ爲シタルトキハ其ノ數量ヲ備考ニ附記セシムヘシ
- 四 鹹水ヲ讓受シタルトキハ採鹹量欄ニ讓渡シタルトキハ煎熬量欄ニ其ノ數量ヲ比重ハ相當欄ニ價格、讓渡又ハ讓受人ノ氏名ヲ備考ニ附記セシムヘシ
- 五 鹹水溜母ニ口座ヲ設ケ更ニ計ノ口座ヲ附スヘシ
- 六 第六條ノ二ノ場合ニ於テハ鹹水注入前後ノ深サ欄ヲ「擔桶數」トナスコト
- 七 鹹水量欄ニハ便宜百十石斗升合ノ割線ヲ設ケ斗未滿ヲ切捨ツルモ妨ナシ
- 八 缺減鹹水量及採鹹準備日數ハ備考ニ其ノ數量ヲ附記セシムヘシ
- 九 検査ノ時々計ヲ付シ検査月日ヲ備考ニ記載シ監視員認印スヘシ
- 十 月計及累計ヲ付セシムヘシ

製鹽ノ部

月	日	焚上釜數	焚上量	納付		自家用		缺減其ノ他	一釜苦汁注加量	備考
				數量	等級	數量	等級			







製 鹽 段 別	採掘地ノ敷地 其ノ他ノ敷地				
一箇年製鹽許可高	斤				
沼井臺箇數	夫婦臺 斤	穴數	合		
標准ナルヘキ沼井穴(擔箱、鹹 水汲上用釣瓶)一箇當容量					
釜籠ノ種別					
製鹽方法別					
前年度製鹽歩合	鹽水一石當 平均比重一度當				
釜焚交替時刻					
製鹽者ノ同居家族及薪水ヲ共ニ スル雇人ノ員數					
自家用鹽見込高	斤				
地主ノ住所氏名					
小作料					

備考

- 一 四月始ニ於テ調査記載スヘシ
- 二 本各事項以外ニ尙調査シ置ク必要アル事項ハ之ヲ調査記載スヘシ

鹽專賣 鹽及鹹水ノ製造 製鹽ノ検査





調査月日	區別	準備日數	探 鹹 日 數			期 別	準備日數	開始月日	休 止 月 日	備 考	管 該 官 印 認
			探 持	鹹 持	日 持						
四 月						第一期					
五 月						第二期					
六 月						〃					
七 月						〃					
八 月						〃					
九 月											
十 月											
十 一 月											
十 二 月											
一 月											
二 月											
三 月											
	計										

備考

毎月上旬ニ於テ前月中ノ實蹟ヲ調査記載スヘシ

鹽專賣 鹽及鹹水ノ製造 製鹽ノ検査

鹹 水 検 査

月	日	探	鹹	煎	蒸	損	害	現				在				増	減	備	考	官	當	該	印
								第	第	第	第	何	々	臨	採								
		日	比	比	比	比	入	入	入	入	入	入	入	入	入	入	入	入	入	入	入	入	入
		數	量	量	量	量	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實
		合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合

備考

- 一 本検査ハ臨檢ノ都度調査スヘシ
- 二 採收鹹水ノ集計ニ對スル平均比重ハ各日ノ比重ニ其ノ採收容量ヲ乘シ其ノ和ヲ總容量ニテ除シ之ヲ定ムヘシ
- 三 煎鹹鹹水ノ平均比重ハ前項ニ準ス
- 四 前年度ヨリ持越ニ係ルモノハ差引計欄ニ記入シ其ノ旨備考ニ説明スヘシ
- 五 臨檢毎ニ各貯藏溜入實深ヲ測定シ容積表ニ對照シ調査記載スヘシ但シ臨檢前日ノ日ヲ以テ整理スルヲ便トスル製鹽場ニ對シテハ臨檢當時ニ於ケル現在鹹水量ニ臨檢當日ニ於ケル既煎鹹鹹水量ヲ加ヘ採藏量ヲ控除シタルモノヲ以テ整理スルコト
- 六 月計及累計ヲ附スヘシ但シ累計ハ之ヲ省略スルヲ妨ケス
- 七 鹹水ノ移出入アル製鹽場ニ付テハ便宜相當欄ヲ設ケ整理スヘシ
- 八 單位ハ斗又ハ升トナスヲ妨ケス



製鹽現在検査

検査月日	包装鹽	散	庫	居	鹽	出	處	理	命	令	鹽	回	途	中	劣	等	鹽	計	備	考	當	該	官	

備考

- 一 本検査ハ臨檢ノ都度調査スヘシ
- 二 包装鹽欄ニハ包装シテ貯藏セルモノノ斤數ヲ記載スヘシ但シ處理命令鹽又ハ劣等鹽ニシテ包装貯藏セルモノハ相當欄ニ分割記載スヘシ
- 三 散鹽トシテ在庫貯藏セルモノハ在庫ニ、居出シニ貯藏セルモノハ居出シノ部ニ記載スヘシ但シ劣等鹽又ハ處理命令鹽ニシテ散鹽トセルモノハ各相當欄ニ記載スヘシ
- 四 臨檢當日納付ノ爲回送中ニ係ルモノハ回送中欄ニ記載スヘシ但シ歸局(所)後直ニ其ノ正否ヲ照查スヘシ
- 五 包装シタル鹽ニ對シテハ其ノ包装種類ヲ當該欄左上方部ニ(數種ノ包装鹽アルトキハ其ノ種類、箇數ヲ備考ニ附記スルモ妨ケス)記載スヘシ
- 六 劣等鹽トハ黑鹽、掃寄鹽又ハ鹽トシテ取扱フヘキ屎先鹽ヲ謂フ
- 七 散鹽斤數ハ其ノ算出ノ基礎ヲ備考ニ附記スヘシ
- 八 在庫欄ハ更ニ貯藏區別毎ニ細別記入スルヲ妨ケス

鹽專賣 鹽及鹹水ノ製造 製鹽ノ検査



處理命令鹽調查

調査月日	處理命令月日	命令ノ方法及期間	處理ノ狀況	注意ナルシテ	備	考	當該官吏認印

備考

- 處理命令鹽ノ異ル毎ニ記載スヘシ
- 納付其ノ他ノ事由ニ因リ處理鹽ノ結末ヲ告ケタルトキハ其ノ數量、月日及事由ヲ備考ニ記載スヘシ

立會煎蒸及貯藏試驗

調査月日	煎蒸鹹水	苦汁注加	釜上釜數	苦汁抽出	釜上釜數	釜上貯藏時間	釜上煎蒸時間	貯藏日數	貯藏方法	試驗成績	缺量	減歩	燃用高	燃驗	水當	鹽製	鹽一釜當	料	備考	當該官吏認印
	數量	比量	合	合	合	斤	時間	日數	方法	數量	等級	數量	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤	斤

備考

- 試驗成績數量ハ各調査終了ノ際ニ於ケル斤數ヲ記載スヘシ
- 燃料ノ成績ハ取締上支障ナキト認ムル製鹽場ニ對シテハ之ヲ省略スルコトヲ得

鹽專賣 鹽及鹹水ノ製造 製鹽ノ検査





一 自家用鹽ノ交付又ハ検査毎ニ記載スヘシ  
 二 本表ハ居宅臨檢ノ際携帯ニ便スル爲本検査簿ニ添附セス別表トナスモ妨ナシ

検査容量調査

調査月日	煎釜ノ容量			温メ釜ノ容量			備考	検査印										
	種類	番號	縱横深	石數	一口徑	底徑			深	石數								
				合				合										

備考

一 四月始及異動ノ時々調査記載スヘシ

参考録

月日	事	項	當該官吏認印

備考

一 被監視者ノ狀況、鹽トシテ取扱ハサル厚先鹽ノ數量及讓渡其ノ他參考トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ

鹽專賣 鹽及鹹水ノ製造 製鹽ノ検査







## 備考

- 一 本検査ハ臨檢ノ都度調査スヘシ
- 二 各煎熬期毎ニ口座ヲ設クヘシ但シ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 三 製鹽ノ部納付見込量ハ現在鹽ニ對シ納付セラルヘキ時期迄ノ相當缺減量ヲ見積リ（現在検査ノ部包裝鹽回送中ノモノハ缺減量ヲ見積ルヘキモノニアラス數量其儘ヲ納付見込量トス）納付量ニ換算シ記載スヘシ
- 四 製鹽歩合ハ納付、自家用、損害、溶解及納付見込ノ合算ヨリ前検査ノ際ニ於ケル納付見込量ヲ控除シ尙四月一日ニ持越シタル現在鹽アリタルトキハ其ノ納付見込量ヲモ控除シ前検査後ノ煎熬鹹水ニテ除シ算出スヘシ
- 五 現在欄ニハ現在検査ノ部ノ現在高ノ計ヲ記載スヘシ
- 六 四月一日ニ持越シタル鹽ハ現在欄ニ記載シ其ノ旨備考ニ附記スヘシ
- 七 月計及累計ヲ附記スヘシ但シ累計ハ之ヲ省略スルコトヲ得
- 八 製鹽歩合ニシテ著シク不權衡ナルモノハ其ノ理由ヲ調査シ備考ニ附記スヘシ
- 九 比重一度當製鹽歩合及焚上ニ對スル缺減量、歩合ハ取締上必要ナシト認メタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

鹽製造簿ハ適宜西洋紙ヲ用ヒ横式ト爲スモ差支ナキコトニ指示セリ（大正九年三月甲第一〇三五號指示對神戸支局長）

## 第四節 製鹽ノ指導獎勵

### 第一款 製鹽ノ指導

鹽專賣ハ收入ヲ目的トスルト同時ニ鹽業ノ改良ヲ期セルヲ以テ平素現業ノ缺點竝改善ニ必要ノ要點ハ地方支局ヲシテ常ニ調査申報セシメ（明治二十八年五月臨第一八六五號内訓）其ノ改善ヲ講シ技術官ヲシテ當業者ヲ指導セシメ之カ實現ヲ圖レリ

鹽ノ色相改良ニハ鹹水ノ濾過ヲ可トシ其ノ設備ナキ地方ニ對シテハ濾過器ノ設備ヲ勸奨シタリシカ當初勞務ノ増加ト鹹水ノ減耗トヲ懸念シ實行ニ躊躇ノ狀アリシモ其ノ成績可良ナルヨリ大正二、三年來之カ實現ヲ見ルニ至レリ